

令和4年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 大谷場 小学校)

学校番号 015

| | |
|--------|--|
| 目指す学校像 | 一人ひとりの輝く瞳と笑顔の実現に向け、教職員が自ら多様な個性を生かしながら、子どもに寄り添い、課題に共に向き合う学校 |
|--------|--|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 学びの自律と探究化に向け、学ぶ意欲や自己肯定感を高めるカリキュラム・マネジメント 2 子ども達一人ひとりの幸せと夢の実現を支援する、安心・安全な教育環境の整備、健幸づくり 3 学校を核とし、家庭、地域が一体となって取り組む教育活動 4 一人ひとりが力を存分に発揮し、誰もが居心地のよい学校をつくる教職員研修の充実 |
|------|---|

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| 年度 | | 学 校 自 己 評 価 | | | 年度評価 | | 学校運営協議会による評価 | | |
|----|---|---|---|---|--|---|--------------|---|---|
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 実施日令和5年2月10日 | |
| 1 | (現状) ○情報機器や学校図書館の活用について教職員、児童ともに肯定的な意識が高い。 ○全国学力・学習状況調査の平均正答率は、市の平均を上回っており、概ね良好な状況と考えられる。 (課題) ○情報機器や学校図書館を効果的に活用し、多様な学びの場、個別最適な学びを実現することで、学びの自律や探究化を図る。 ○児童向けアンケート結果等から、「自分の考えを進んで発表できる。」や「分からないことや不思議に思ったことを質問できる」と自信をもって答えられる児童の割合が他の項目と比べてやや低い傾向が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> 情報端末や学校図書館を積極的に活用し、多様な学びの場、個別最適な学びを実現する。 自分で選択・決定し、表現や試行錯誤を繰り返す学習、協働しながら課題を解決する学習の充実を図る。 | ①ICT、デジタル教科書・教材の教職員、児童による活用場面を設定する。 ②学校図書館に、STEAMSやSDGs、金融経済教育などに関する蔵書の配架を進める。また、複数種の新聞を置く。 ③市教委による学力向上カウンセリング研修等を活用する。 | ①情報端末やデジタル教材、図書について、低学年では、使うことができるようになったか。中学年では、課題解決のために使うことができるようになったか。高学年では、長所や短所を考えて使うことができるようになったか。 ②教員が児童の学力の状況を把握、分析し、指導や支援に反映させることができたか。また、児童が自ら目標や課題を設定し、学習に取り組むことができたか。 | ①各学年で民間企業等外部講師を招聘した学習、教員と児童とともに学び、試行錯誤しながら課題の解決を目指す学習を実施することができたか。 ②児童向けアンケートの結果を向上させることができたか。 | ・各学年、各教科の実態に応じて学校図書館や情報端末を活用し、児童の学びを深めることができた。特に、ドリルパークやスタディサプリなどのデジタル教材を積極的に使うことで個に応じた学習が進められた。 ・STEAMS TIME や SDGs、金融経済教育など、探究的な学びも進めることができた。 ・学力向上カウンセリング訪問を活用し、本校の実態を把握し、改善に努めた。児童が自ら課題を設定し、自ら学ぶ姿が見られるようになってきた。 | A | ・情報端末の活用について、さらに研修、研究を進め、家庭学習での活用等、よりデジタルの優位性を生かした効果的な活用方法を学校全体で共有し、個別最適な学びの実現、充実につなげていく。 ・空き教室やフリースペースを活用するなど、学校図書館をはじめ、多様な学びの場づくりに取り組む。 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 2 | (現状) ○挨拶や言葉遣いについて、毎年課題として挙げられており、教職員と児童、保護者に意識の差がある。 ○昨年度の新体力テストでは、握力と投力に課題が見られた。また、コロナ禍による影響が危惧される。 (課題) ○主体的なあいさつや適切な言葉づかい、いじめの防止等、よりよい生き方について主体的に考える力、自ら判断、行動する力をはぐくみたい。 ○運動時間の減少や学習以外のスクリーンタイムの増加などの傾向にコロナ禍が加わる状況にあり、生きる力の基盤となる体力をはぐくみ、健康の維持だけでなく、意欲や気力といった精神面の充実につなげたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 「考え、議論する道徳」や体験的活動を通して、よりよい生き方について主体的に考える力をはぐくむ。(主体的なあいさつ、いじめの防止を含む) 体育授業の充実、体育的行事や取組の改善を通して、子どもたちが主体的に運動に取り組めるようにする。 | ①学校課題研究における「考え、議論する」道徳の授業づくり、研究の成果を生かした学校全体での取組を進める。 ②教育支援・相談に係る校内委員会等で共有した情報を基に適切なタイミングで組織的な支援、相談を実施する。 | ①主体的、対話的な授業づくりをとおして、児童が自己肯定感や自尊感情を高め、あたたかな人間関係を築くことができるようになったか。 ②アンケートや教育相談を適切に実施し、情報を校内、関係機関、保護者と共有、連携して問題を解決することができていると保護者が捉えているか。 | ・学校課題研究については、学校全体で授業を見合ったり、検討したりしたことで、よりよい授業づくりができた。 ・主体的なあいさつやいじめの防止については、保護者や地域の方々の協力のもと、よりよく生活できるように指導・支援した。児童会による「アイ・キャンベーン」、自主的なゴミ拾い活動など、児童が主体的に取り組む姿が見られた。 ・教育支援・相談等については、常に組織的、迅速な対応、子どもの心に寄り添った対応に努めてきた。 | ・感染症対策等により一部実施できない学年もあったが、民間企業（DMM 英会話）や日本赤十字社など新たな外部講師も積極的に招聘し、課題解決型の学習、探究的な学びを充実させることができた。 | B | ・学校と家庭との連携をより一層深めるため、教師と保護者が直接顔を合わせ、児童の成長などについて話し合う機会（懇談会や個人面談等）を充実させる。 ・学校課題研修の手法や組織を一層工夫し、ICTを活用することで、授業実践研究の成果をより児童に還元していく。 ・教育支援・相談等については、連絡・相談・報告を密にし、引き続き学校全体で取り組む。 | 児童が個性を発揮しながら、落ち着いて学校生活を送っていると感じる。 児童相互で話し合う活動を多く取り入れている。また、学校が、保護者の意見をよく聞いていることが分かる。その結果として、児童、保護者、教職員の「自分の学校」という意識が高まっている。 登校班では、上級生が下級生に、穏やかに、優しく接する様子が見られる。 コロナ禍により、子どもも大人も価値観が大きく変わっている。引き続き、子ども達に寄り添う姿勢を大切にしてもらいたい。 |
| 3 | (現状) ○今年度より、本校学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていく。 (課題) ○目指す児童の姿を、家庭、地域、企業など、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向け、これまでの取組等を整理する。 | <ul style="list-style-type: none"> 目指す児童の姿を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動公開 児童の自律につながる「大谷場小コミュニティ・スクール成長プラン(仮称)」の策定と行動 | ①本校HPで学校運営協議会及びSSNの情報を発信し、目指す児童の姿等を広く、家庭、地域と共有する。 ②学校行事等について、学校に関わる人々が参観、参加できるようにし、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。 | ①学校運営協議会に関する情報を本校HPに年間3回以上掲載するとともに、家庭、地域からコミュニティ・スクールについて理解を得ることができたか。 ②保護者、地域向けアンケートの結果を向上させることができたか。 | ①学校運営協議会に関する情報を本校HPに年間3回以上掲載するとともに、取組の方向性を共有することができたか。 ②中長期的な視点を持って、学校、家庭、地域、行政が協働した活動に取り組むことができたか。 | ・学校運営協議会委員の方々には、授業や運動会、音楽会を見ていただくことを通じて、児童の姿を直接見ていただくことができた。また、学校運営協議会で代表児童が、児童会の取組を発表したり、会食したりする場を設けることができた。 ・感染症対策をしながら、授業参観や学校行事の計画を工夫し、保護者が参観する機会を設定した。 | B | ・感染症拡大の収束の見通しが見えない状況にあり、大谷場小学校に関心を寄せていただいている地域の方々には、安定して学校に来ていただくことは難しくなった。 ・学校ホームページを工夫するなど、多くの方々の来校が難しい時も、本校の教育活動や児童の活躍を知っていただけるようにする。 | コロナ禍もあり、児童と保護者、地域が関わる機会が少ないため、お互いの様子が分りにくい。情報発信、共有の仕方が工夫されると、一層の信頼関係構築に役立つのではないかと。普段の学校生活の中で、交流の場、機会をつくることができるとよいのではないかと。学校運営協議会での熟議等を通して、それぞれの立場から意見や考えを聞くことができた。 |
| 4 | (現状) ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○高学年での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができてきた。 (課題) ○多様な個性、得意を生かし、児童の自己肯定感、自尊感情を高め、主体的、対話的に学ぶ姿を具現化する。 | <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが力を存分に発揮し、子ども一人ひとりの笑顔と輝く瞳を実現するための教職員研修の充実 | ①研究組織、手法を工夫する。 ②道徳科、体育科を中心とした、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成についての研究に取り組む。 ③さいたま市教育委員会やさいたま市教育研究会と連携・協働した研修・研究の取組を進める。 | ①教員向けアンケートの結果を向上させることができたか。 ②中長期的な視点をもって、目指す児童の姿や成果指標を設定することができたか。 ③研修・研究の取組について、児童や保護者、地域に向けて情報発信し、肯定的な評価を得ることができたか。 | ・エヴァンジェリストの担当が、率先して取り組み、効果的な活用方法を学校全体に広めることができた。 ・学校課題研修では、全ての教員が学習指導案をもとに授業を実践し、互いに授業を見合う公開授業を行った。 ・高学年は教科担任制を導入したため、教材研究を充実させることができた。 | ・エヴァンジェリストを中心としたICT活用研修の機会を充実させるなど、教職員の資質向上に努める。 ・学校課題研修について、共通理解を深め、さらに充実させていきたい。 ・教科担任制については、縦のつながりも意識していきたい。 | B | 教職員が、児童のためにと一生懸命に努力していることが伝わってくる。 | |